

# 過去問演習のやり方

## 0. まず初めに

⇒ 過去問演習に関して、分かっておいてほしいことがあります。過去問演習は、

- ① 時間配分や、問題の出題傾向を知る。
- ② 実践感覚を研ぎ澄まし、応用問題にも対応できるようにする。
- ③ 自分の苦手分野をあぶりだす。

ことが目的です（全科目共通）。特に化学に関しては、数学と英語に比べ、学習期間が短いために、この過去問演習で、実践感覚の養成と、苦手分野の認識が非常に重要になります。

授業では、一般的に全生徒に共通的に必要なことを教授していきますが、これから先は、大学別の問題のクセや、個人の苦手分野のつぶしなど、個々人で勉強の仕方が変わってきますので、餌を待つ小鳥のひなのように、与えられるのを待っているのではなく、自ら考えて勉強の計画も組んでいってください。わからないことがあればアドバイスはしますのでお気軽に。

## 1. 過去問演習の準備

⇒ もちろん以下のものが必要である。

- ① 青本をはじめ、過去問演習のための問題と解答が載っているもの。
  - ② 過去問演習用のノート。（ルーズリーフ禁止。過去問ノートは見返しが必要になるため。）
  - ③ メモ帳（できればポケットに入るサイズが良い、使い方は後述）
- そして、首藤クラスにおいては、別途配布する、
- ④ 過去問 Review シート（後述）
- を準備する。

## 2. 過去問演習のやり方

⇒ 以下の順番で過去問演習はすること、

### ① まずは、実際の時間制限でやってみる。

⇒ 時間をごまかしても何の意味もない、解ききれない or 全然できなくても現実を直視せよ。解ける問題をまず見分け、どうしても難しい問題はまぎれていきますから、それは後回しにして、時間が余ったらやるってのが得点の最大化につながります。

### ② 終わらなかったところを解答を見ずノートの別ページにやる。

⇒ その部分は時間が足りずできなかったという“力不足”なので、時間制限内に終わらせる能力の養成が必要。しかし、過去問慣れの点からは、すべての問題に触れておくべき。

### ③ できなかった問題に関して、原因を考える。

⇒ 一番重要な段階。過去問で何点取れたかなんではっきり言ってあんまり関係ない。解けなかった問題は、「勉強不足だったのか」、「時間不足で解けなかったもったいない問題だったのか」、「できなくてよかった問題だったのか」を考える。**満点とはとれる必要はないので、できない問題もある。できない問題を見極める力も必要である。**

## 3. 過去問演習後の処理

⇒ 過去問演習をすることが意味のない無駄な時間になってしまうタイプを先に言っておきます。それは、「**点数だけに執着し、自分がどれだけ解けたかだけ確認していい気持ちになるだけの人**」です。これまで見た受験生で、このタイプは一番まずいです。勉強がとびぬけてできる人なら、間違いが少ないために、過去問を解くだけで少ない自分の苦手が見えてくるのですが、たいていのひとは、過去問を解き、点数を見てるだけでは、合格ラインまで自分を高めることはできません。そこで、過去問を解き終わった後の後処理が非常に重要です。やるべきことは以下。

① 過去問 Review シートに基づき、自分の解答の得点率、合格最低点、反省、自分の解けなかった問題の改善方法の具体案の決定。

⇒ 過去問 Review シートのフォントに従い、埋めてください。**反省は、感想文ではない**です。高校生も大人ですから、ちゃんと考えて“反省”をすること。苦手分野の克服は、「～問題集の、何ページ～何ページまで」と、超絶具体的に書きましょう。ぼんやりと、「蒸気圧」だけ書いてても、何の解決にもなりません。

② 自分の苦手のあぶりだしとその記憶への定着。

⇒ 苦手なものを人間は避けたいものです。しかし、勉強は、「苦手なものをどれだけできるようにしていくか」に時間を使わない限り、意味がありません。できる問題はいくらやってもできるんですから時間の無駄です。しかも苦手は繰り返します。(克服しようとしなから当然なのですが。) 何度も何度も苦手で失点するのは、もったいないと思いませんか。そこで、その苦手をきちんとできるようにするためのメモ帳です。

(1) **メモ帳に自分が過去問で間違えた単元を書く。(浸透圧や平衡などざっくりでも可)**

⇒ これで自分の苦手な単元が大まかにわかる。

(2) **メモ帳に、授業プリントなどで基礎を確認し、重要な公式や、定義をメモしておく。**

⇒ 人間の頭は、自分のいやなことを忘れるように努力してしまいます。(だからこそ逆に勉強を楽しんでいる人は、勉強が嫌じゃないので、記憶から勉強のことを忘れず成績も上がるのですが) そのため、苦手なことは半強制的にでも頭に叩き込む必要があります。そのためには、もう回数を稼ぐしかありません。メモ帳に自分の苦手をかき、何度も何度も公式や重要事項を確認することで、頭に入れてください。もちろん演習として問題集やテキストの問題までやりましょう。少し難しい、オーバーワークだと自分で思うくらいまでやってください。

4. **最後に**

⇒ 過去問を解くだけでは成績は上がりません。君ら“やりたい楽なことだけ”で、簡単に成績が上がるなら、予備校なんてものはない。成績を上げるためにどうするか、真剣に考えてください。先生やチューターを頼るのもよいでしょう。もちろん授業は大切です。あと、自分で「この程度でいいや」と勝手な線引きをしない。受験に出ることだけしか吸収しようとしなない人は、頓挫します。勉強を楽しんで、「こんな考え方もあるのか」となんでも知として取り入れてください。

**＜過去問自己 Review シート＞ 高3化学 首藤クラス**

年度	大学名・学部	得点率(正解数 / 全問題数)
年度	大学      学部	/      =      (%)
この年の大学の最低点 (全体)		制限時間とかかった時間
点(で合格) / 点(満点)		分(かかった) / 分(制限)
自己評価 + 感想 (言い訳もどうぞ)		
解いてみて自分に足りないと感じた単元とその対策(次の授業までにやること)		
どうしてもわからない(首藤に質問したい)問題(最大2問まで)		
☆ 問題を付けてくれないと解答はできません。何がどうわからないのかも書いてください。		